

# V 歴史・文化

かみたきの ちく みちしるべ  
1.上滝野地区にある道標



さほしんじゃ みちしるべ  
2.佐保神社にある道標



てんじんさん さろ みちしるべ  
3.天神三叉路にある道標



さんちょう ようす  
山頂の様子



さんちょう みくさやましんじゃ  
山頂にある三草山神社

みくさ  
三草コースからのながめ

1.天和2年(1682)に上滝野の庚申講の人々によって建てられたもので、道標としては加古川流域で最古の資料です。

2.寛政9年(1797)佐保神社の参道脇に建てられました。社は高砂街道と京街道の交わる宿場町でもありました。

3.文政10年(1827)天神三叉路に建てられました。高さは人の身長ほどあり、大阪街道と京街道の分岐点であったことを示しています。

加東市には約280基の道標があります。建てられた年代は1682年～1933年と非常に幅広く、その性格についても、西国三十三所や加東四国といった巡礼者向けの道標もあります。

## 1 交通のうつり変わり

### (1) 加東市の道標

道標は、おもに石で造られた昔の道路標識のことで、地図があまり広まっていなかった頃、道に不慣れた旅行者や商売人たちにとって欠かせないものでした。

道標は、街道や村々の交差点など、通行するうえで重要な位置に建てられ「右：〇〇、左：〇〇」のように方向と行き先が刻まれました。そのため、これらを調べると当時の街道や村道を復元することができます。さらに、建てられた時期や建てた人の名などが刻まれたものもあり、地域の歴史を知る文化遺産としても貴重な資料といえます。

### (2) 三草山と丹波道

標高423メートルの三草山山頂には、三草山城のあとがあります。登山道が整えられ、ハイキングやご来光登山で、たくさんの方がおとずれています。

三草山の西側の谷間には、国道372号が通っています。この道は丹波道とよばれ、京都と姫路をむすぶ最短ルートとして、古くからつかわれてきました。『平家物語』にも登場し、源義経が平家軍に勝った1184年の三草山の戦いでも、たくさんの兵士がこの道を通りました。馬瀬地区にある弁慶の力石、下三草薬師堂にある五輪塔群など、三草山の戦いにまつわる言い伝えもたくさんあります。また、足利尊氏や羽柴(豊臣)秀吉もこの丹波道を通ったそうで、今も昔も、重要なルートです。

三草山を多くの方がおとずれるひみつは、何かな。



丹波道が、今も昔も重要なルートなのは、なぜかな。

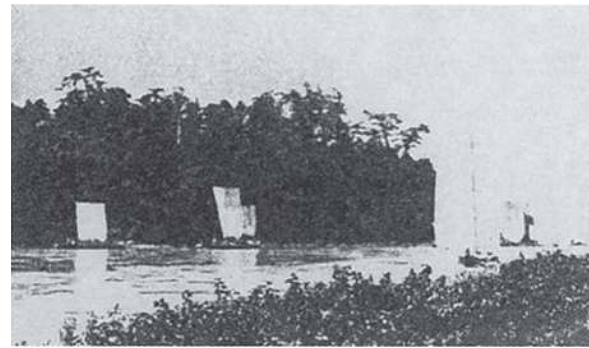
### 参考



よしつねでんせつ  
義経伝説ルート  
かとうし かんこうきょうかい  
加東市観光協会



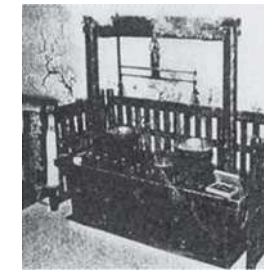
加古川を下る高瀬舟(大門誌から)



大門的場付近のもどり舟(高瀬舟)(大門誌から)



高瀬舟(加古川流域滝野歴史民俗資料館)



商家の帳場(大門誌から)



イカダ流し(大門誌から)

たかせぶねは、なぜ、底が平たくなっていたのかな。また、どのようにして、物を運んだのかな。



加古川の長さは約96キロメートル、その流域面積は1727km<sup>2</sup>で、兵庫県全体の約21%をしめています。そのうち、山地と平地のしめる割合は、山地が67%、平地33%になっています。(流域面積とは、ある川に雨や雪が流れ込む範囲のこと。)

### (3) 加古川の流れ

加古川の源は、丹波市青垣町と朝来市山東町の境にある標高963メートルの粟鹿山の谷間にあります。そこから、途中、篠山川、杉原川、東条川、美嚢川など115の川を合わせて、播磨灘へと流れています。加古川は、県下第一の長い川ですが、大規模なダム施設がなく、しかも下流域では、雨が少ない気候のため、水の量は多くありません。

### (4) 加古川舟運

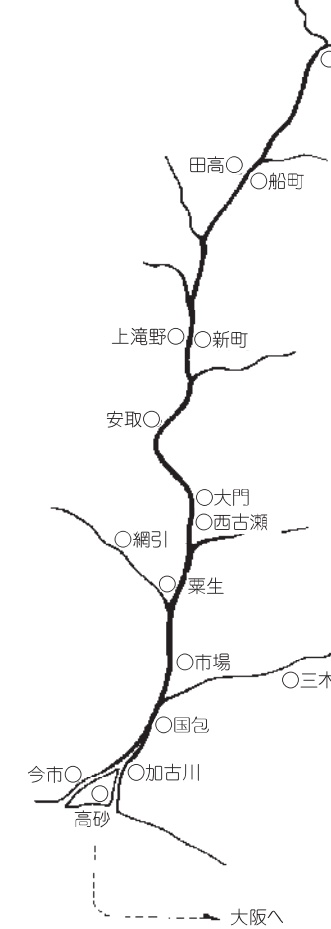
高速道路や鉄道がなく、交通が今のようにべんりでなかったころ、川は大事な交通手段でした。

加古川を行き来していた船のことを高瀬舟といい、底が平たく、帆をはるようになっていました。

豊臣秀吉が天下を統一すると、新しく日本の政治・経済の中心になった大阪へ、東播磨地域や丹波地域の物資を運ぶことになりました。牛馬の背や荷車では、早くたくさん運ぶことができません。そこで考えられたのが舟でした。

その頃、北播磨地域をおさめていた豊臣氏の代官・生駒玄蕃は、滝野村の阿江与助らに舟の道をつくるように命じました。しかし、加古川は浅瀬や岩が多くてとても危険です。与助たちは、岩をけずり、浅瀬に水路を掘って舟が通れるようにしました。

### ●舟運のさかんであったころの舟つき場



滝野から河口の高砂港まで高瀬舟の航路が開かれたのは、1594年のことです。はげしい流れにたえる高瀬舟とよばれるじょうぶな舟もつくりました。ついで、1604年、播磨国の領主・池田氏によって闘竜灘から上流の氷上郡本郷村までが開発され、加古川舟運は完成しました。

高瀬舟は滝を越せないで、上流の荷物はその手前でおろし、下流の舟に積みかえました。こうして、江戸時代から明治時代にかけての滝野は、物資の集散地として栄えました。

加古川の舟運がさかんなころは、川の両岸に舟つき場ができていて、そこで人や荷物の

積みおろしをしていました。主な積み荷はお米で、もどってくる舟には、肥料や塩などがつんでありました。

舟つき場には、荷つみで働く人が近くの村から集まってきた、舟に乗る人などの泊まる宿屋や舟大工、肥料屋、炭屋、塩屋、みやげ物屋、米問屋などができたため、にぎやかな町となっていました。大門地区や、新町地区には舟の板を使った倉庫や舟つき場のあとなどが残っています。

ざいもく材木は、いかだを組んで、川に流していました。





たか せ ぶね はこ もの  
高瀬舟が運んだ物

た か がりゅう すぎはらかみ どう もくざい はこ  
多可から下流へ杉原紙や銅、木材が運ばれました。

か とう はり まへい や こめ がりゅう はこ  
加東など播磨平野でとれた米が下流へと運ばれました。

かりゅう じょうりゅう しお さとう ほしか かし ふく はこ  
下流から上流へ塩、砂糖、干鰯、菓子、服が運ばれました。

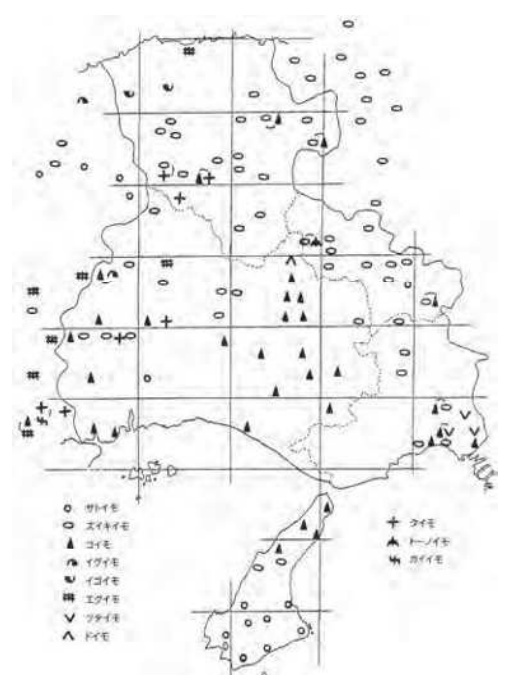
たか せ ぶね  
～高瀬舟について、わかったこと～

- ・ あさい場所でも通れる箱形の舟。
- ・ 「船頭(オヤジ)」、「とものり」、「中のり」の3人が舟をあやつった。
- ・ 長さ:約11メートル
- ・ はば:約2メートル
- ・ 米俵を約60俵(4トン)運んだ。(1俵=約60キログラム)
- ・ 滝野を真夜中の2時～4時に出発し、午前8時に高砂に到着していた。
- ・ 滝野から高砂までの38キロメートルを約4時間でくだった。
- ・ 舟運ができるのは、年間のうち9ヶ月間。

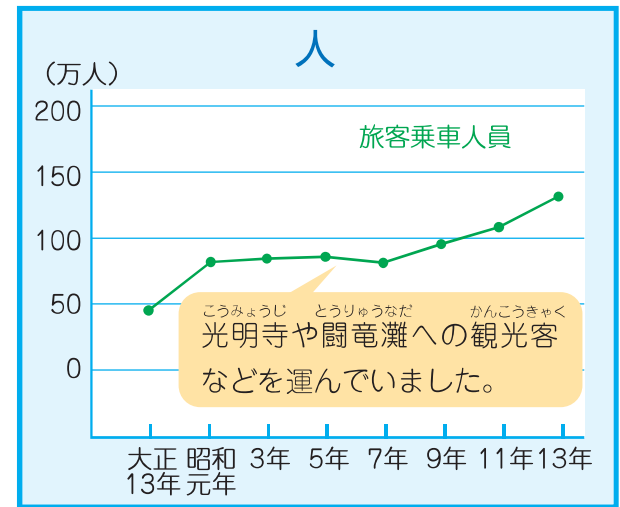
ぶん か こと ば ひろ  
文化(言葉)の広がり

たか せ ぶね きた はり ま さまざま  
高瀬舟は、北播磨の様々な地域をつなぎました。右の図のように、川に沿って、野菜である「サトイモ」をよぶ名前も変わっています。高瀬舟によって、物と共に文化(言葉)も広がっていたことがうかがえます。  
(出典:「兵庫県の方言地図」)

- サトイモ
- ズイキイモ
- ▲ コイモ
- イグイモ
- イゴイモ
- エグイモ
- ▽ ツチイモ
- △ ドイモ
- ✦ タイモ
- ▲ トーノイモ
- ㄩ カイモ



ばん たん てつ どう ばん しゅう てつ どう はこ もの  
播丹鉄道(播州鉄道)が運んだ人や物



ばん しゅう てつ どう  
(5) 播州鉄道

明治の初めころ、鉄道は文明開化の象徴の一つで、明治5年には早くも新橋一横浜間が、明治7年に大阪一神戸間に、さらに明治22年には新橋一神戸間が開通し、全国的に鉄道を望む声が高まりました。東播磨でも、この影響を受けて鉄道敷設計画が立てられました。

まず、南北鉄道ですが、これは神戸一三木一社一柏原を結ぶ路線でした。ついで、播磨鉄道(明石一社一谷川)、高福鉄道(高砂一福知山)などが計画されましたが、経済事情や地元の要望と合わず中止となりました。

しかし、人々の要望は強く、明治43年に播州鉄道株式会社を設立、大正2年に加古川一西脇間が開通しました。距離は38.9キロメートルでした。滝野地域には、滝・滝野・社の3駅が置かれ、光明寺・闘竜灘への観光客や高瀬舟にかわる貨物の輸送でにぎわいました。



播州鉄道は、第一次世界大戦の好景気にささえられ、北条線・三木線・鍛冶屋線・谷川線をつぎつぎに増設しました。しかし、戦後の不況で倒産しました。大正12年に播丹鉄道株式会社に経営をゆずりました。昭和18年に、播丹鉄道は国策上の理由で国鉄に買収されて国鉄加古川線となり、さらに昭和62年からは民営化されてJR加古川線となり、現在にいたっています。

しんさいじ ようす  
震災時の様子



かとうし ない こうぎょうだんち  
加東市内の工業団地



はんしん あわじ たいしん さい かこがわせん  
(6) 阪神・淡路大震災とJR加古川線

1995年1月17日に兵庫県南部地震が発生し、淡路・神戸・阪神地域で大きな被害が出ました。JR神戸線は不通となり、姫路一大阪間の移動が難しくなりました。

そこで活躍したのがJR加古川線でした。姫路方面から大阪へ行く人たちはJR加古川線を使い、福知山線を経由して大阪まで移動しました。

JR加古川線の  
ひつようせい  
必要性が見直  
され、2004年  
に電化されま  
した。



こうそくどうろ じつち  
(7) 高速道路と工場の立地

工業団地は、高速道路や国道のそばに集まっています。これは、道路網の発展により、遠く離れたところにも工場で作ったものを運べるようになったからです。トラックは、一度に運べる量は少ないものの、貨物を戸口から戸口まで直接運べる便利さが魅力です。

加東市には、上の図のように4か所の工業団地があり、約60社が進出しています。



ひょうご東条ニュータウン  
インターパーク付近の工場

加東市と日本各地  
が高速道路で結ばれ  
ていることを調べて  
みよう。

「全国路線図」で  
検索するといよいよ。



全国路線図

電化された加古川線  
は、今、どんな課題を  
かかえているのだろ  
う。  
調べてみよう。



参考



守ろう!みんなの加古川線!!  
~JR加古川線特集ページ~

## 2 加東市の遺産

### (1) 先人たちが残したものの(遺産マップ)



身の回りには、どんな古いものがあるか探してみよう。



ちょうこう じおにおいおどり  
朝光寺鬼道踊



ごぶさんこうみょうじ  
五峰山光明寺



かんのんじ ほんどう  
観音寺本堂



あごうぎ しい  
赤穂義士祭



さほじんじや  
佐保神社



とうふくじ ひわた きょう  
東福寺 火渡り行



かみかもがわすみよしんじやしん じまい  
上鴨川住吉神社神事舞



かみかもがわすみよしんじや  
上鴨川住吉神社



ばんしゅうきよみずでら  
播州清水寺



くろたにわかみやちまんくうほんでん  
黒谷若宮八幡宮本殿



あきつひやくこくおどり  
秋津百石踊



はしかでら  
捨鹿寺



さかもとりょうせいか しひ  
坂本遼生家の詩碑



あんこくじ  
安国寺  
あしかがよしりのりくびづか  
足利義教首塚





こうみょうじ ほんどう こんどう  
光明寺本堂(金堂)



にしゅうのとう  
二重塔



にそん  
水かけ二尊



かんのん じほんどう  
観音寺本堂



あこう ぎし しじゅうしちし はか  
赤穂義士四十七士の墓



し ぶん か いざん しめ せき ひ  
市の文化遺産を示す石碑

### こうみょうじ がっせん 光明寺合戦

なんぼくちょうじだい きょうと ばくふ  
南北朝時代、京都に幕府を  
あしかがたかうじ おとうと ただよし  
ひらいた足利尊氏と弟の直義  
あらせ  
が争いました。

ただよし さいごく  
1351年2月、直義は西国か  
ら攻めのぼってくる尊氏軍一  
まんき ふせ けらい せきとう  
万騎を防ぐため、家来の石塔・  
あいそう うえすぎ たいしょう ごせん  
愛曾・上杉などの大将に五千  
き こうみょうじ しろ  
騎をつけて、光明寺に城をか  
まえさせました。

## ① 光明寺(光明寺地区)

594年に、天竺(インド)から来た法道仙人が建てたと言われているお寺です。五峰山の頂上近くに本堂があり、国指定の有形文化財として仏像が保存されています。光明寺は、歴史書『太平記』に記されている光明寺合戦の舞台として有名です。足利尊氏・高師直と弟の足利直義との戦いで、最後は尊氏が制圧しました。今では、紅葉の名所としても知られていて、「ひょうごの森林浴場50選」に選ばれ、たくさんの参拝者でにぎわっています。

## ② 観音寺と赤穂義士菩提所(家原地区)

「忠臣蔵」というお話を知っていますか。1701年に赤穂藩の藩主であった浅野内匠頭長矩が江戸城の松の廊下で吉良上野介吉央に切りかかり、切腹を命じられてしまうという事件が起こりました。そして、殿様がなくなった赤穂藩は取り潰されることになり、残された家来たちは吉良上野介吉央の屋敷に集まり、殺害して復讐をとげました。しかし、家来たちは切腹を命じられてしまいました。これが「忠臣蔵」のもとになった「赤穂事件」です。

この時の家来たちの遺体は江戸の泉岳寺に葬られました。しかし、遠く離れたこの加東の家原にある観音寺にも家来たちの墓があるのはどうしてでしょう。実は赤穂藩の藩主である浅野家の領地のひとつがこの加東にもあったのです。そして、この辺りを治めていた家原浅野家によって観音寺が建てられました。そうしたつながりもあって、浅野内匠頭が亡くなってから150回忌に民衆らの寄付によって47人の家来たちの墓がつけられました。

四十七士の墓があるのは、東京の泉岳寺、赤穂の花岳寺、そして、加東市家原地区の観音寺の三か所だけです。

今でも、四十七士のうち入りがあった12月14日には、義士祭が行われ、剣道大会も開かれ、たくさんの方がお参りに来られています。



あこう ろうし はか  
赤穂浪士の墓が  
かとうし  
加東市にあるのは、  
なぜかな。





あしかがよしのり くびづか  
足利義教の首塚



あんこくじ ほんどう せきてい  
安国寺本堂と石庭



はしかでら ほんどう  
掬鹿寺本堂



よしつね せきひ  
「義経の道」の石碑

### あしかがよしのり くびづか 足利義教の首塚 について

むろまち じたい ごろ しょうす  
室町時代中頃の様子が  
のこ 残っており室町時代中期の  
すぐ 優れた石像物としても重要  
ぶんかざい な文化財となっています。

### ③ 安国寺と足利義教の首塚(新定地区)

あんこくじ あしかがよしのり くびづか しんじょう  
安国寺は、700年ぐらい前に、室町幕府の初代将  
ぐん あし かが たかうじ ただ よしきょうだい  
軍足利尊氏・直義兄弟によって建てられた寺です。  
いくさ な ひとびと たましい くに あんぜん いの  
戦で亡くなった人々の魂をしずめ、国の安全を祈り、  
くに さか ねが ぜんこく しょ た  
国が栄えることを願って、全国68か所に建てられま  
した。播磨には、1339年に建てられています。

ここには、金閣を建てた足利義満の子で、室町幕  
ふ しょうぐん あしかが よしのり くびづか つた せきとう  
府の6代将軍足利義教の首塚と伝えられる石塔があ  
ります。播磨の国を守っていた赤松満祐が、義教を  
あんさつ ち くよう  
暗殺し、その首を持ち帰って、安国寺で供養しまし  
た。本堂のうらには、高さ170cmの塔が、「義教の  
くびづか のこ  
首塚」として残されています。1411年、あかまつ みつすけ  
あきつ ぶん かく かつ らん  
幕府に敗れました。(嘉吉の乱)



つりがね  
釣鐘

### ④ 掬鹿寺(天神地区)

はしかでら てんじん  
聖徳太子が寺を開き(開創し)、奈良時代に行基  
しょうとくたい し ひら かいそう なら じたい ぎょうき  
がどっしりとしたりっぱな建物(堂宇)を建てたと  
つた じいん はり ま さいごく さんじゅうさん か しょかん のんれいじょうだい  
伝わる寺院で、播磨西国三十三カ所観音霊場第22番  
ふだしょ 札所です。

げん べい がつ せん みくさ やま たたか あと みなもとのよしつね いち の  
源平合戦「三草山の戦い」の後に、源義経が一ノ  
たに へい け せ けいろ  
谷の平家を攻める経路を考えた場所として知られて  
います。進軍のルートであったとされる通りは「義  
つね みち  
経の道」とよばれています。



べんけい ちからいし かみ みくさ  
弁慶の力石(上三草地区)

べんけい ぶ き つ  
弁慶が武器で突いてあけ  
たという、ちよつけい  
直径10cmほ  
どの穴がある。



べんけい な さくら かみくめ ちどりがわはん  
弁慶の投げ桜(上久米地区千鳥川畔)

はしかでら む とちゅう べんけい ひたい  
掬鹿寺へ向かう途中、弁慶の額に  
さくら えだ あ べんけい  
桜の枝が当たったため、弁慶がそ  
えだ お な  
の枝を折って、投げたとされる桜  
の木

加東市には、よしつね  
まつわる伝説が、いく  
のこ  
つか残っているよ。



### さん ころ 参 考



よしつねでんせつ  
義経伝説ルート  
かとう し かんこうきょうかい  
加東市観光協会



とうじょう ぐすいてんぐう  
東条湖水天宮



あきつ ふじさんちよう  
秋津富士山頂

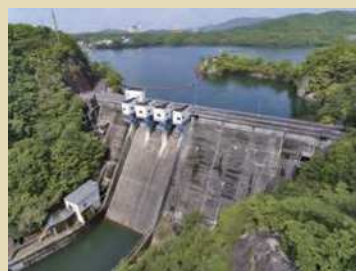


とうりゅうなだ  
闘竜灘



あゆりようかいきんぴ  
5月1日鮎漁解禁日の様子

鴨川ダムは15億円(当時)のお金、のべ60万人の人々の力によって完成しました。完成したダムには838万<sup>3</sup>m<sup>3</sup>(学校の大プール25,000杯分)という大量の水がためられます。全体の計画が終わったのは、1951年のことでした。そのおかげで、加東・三木・小野にたくさんの農業用水を送ることができるようになりました。現在では、加東市の水道水としても活用され、わたしたちの暮らしにとっても大事な役割を果たしています。



かもがわ  
鴨川ダム

### ⑤ 鴨川ダム、東条湖と秋津富士(黒谷・秋津地区)

鴨川ダムは、鴨川をせき止めて、1951年、約5年をかけて完成した戦後初めての国営コンクリートダムです。

東条湖は、このダムによって誕生した人工湖で、屏風岩・五所ヶ渓谷などきれいな景色が見られます。ボート遊び、釣り、近くにできたレジャー施設でにぎわっています。また、湖の北には「秋津富士」とよばれ、東条地域の人々に親しまれている標高320mの小高い山があります。登山道がつくられ、ゆたかな自然と良いながめが楽しめます。

山頂には秋津3号墳(市史跡)という6世紀後半頃に築かれた横穴式石室の円墳がほぼ完全に残っています。



かいしゅうき ねん ひ  
改修記念碑

### ⑥ 闘竜灘と鮎漁(上滝野・多井田地区)

闘竜灘は、川底一面に岩が広がり、物語に登場したり絵に描かれたりする、とても景色の良い所です。はげしい川の流りが岩をのりこえる様子が、竜が飛びはねて闘うのに似ているところから、「闘竜灘」と名づけられました。

また、闘竜灘は、鮎漁でも有名です。「笥漁」とよばれる、笥で流水を引き込んで人工の滝をつくり、滝をさかのぼる鮎を仕かけ穴へ落とす方法は、江戸時代から伝わっています。5月1日には埼玉県秩父市に続き日本で2番目に早く鮎漁が解禁されます。



とうりゅうなだ  
闘竜灘



らくさ やく たき しやしんうえ  
落差約3mの滝(写真上)  
かけりょうしゃしんした  
笥漁(写真下)

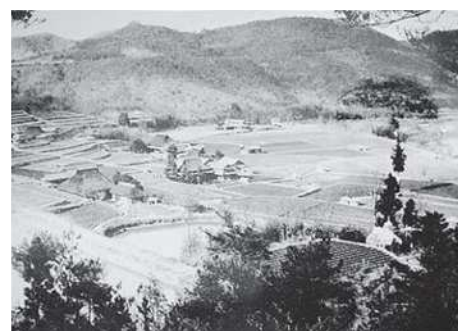
(出典・参考：  
かとう し かんこうきょうかい  
加東市観光協会)

かものがわ こてい しず ど いむら  
**⑦ 鴨川ダム(湖底に沈んだ土井村)**

鴨川ダムがつけられたのは、近くの村に、農業に使う水をいつでもたっぷり送るためです。それまで、水不足でこまることがたびたびあったからです。そのころ、「天恵の地形、土井は池になる」と言ったのは、大正時代に加東郡市場村(今の小野市市場町)で村長をつとめた近藤氏でした。山にかこまれた土井村は、一方をせきとめるだけで大きな池になります。大正時代終わりには、ダムの建設が国会でも話し合われ、つくることが決まりました。

太平洋戦争中には、この計画は止まっていたが、戦争が終わり、たくさんの食べ物を作って生活をゆたかにするために、再びダム建設計画が進み始めました。

土井村には、7軒の家がありました。ダム建設により、土井村の人たちの家も田畑もご先祖様のお墓も、みんな水の底にしずんでしまいます。地区の人たちは、つらい思いをしながらも、ダムができてよろこぶ人たちの顔を思いうかべ、立ちのきに耐えました。いよいよ大規模な工事が始まり、ダム堤、かんせん水路、安政池、舟木池、どう水路と、工事が次々と行われていきました。



どいむら  
 ダムのできる前の土井村



かんせい かものがわ  
 完成した鴨川ダム

かみ しはい こてい  
**紙芝居「湖底のふるさと」が作られたわけ**

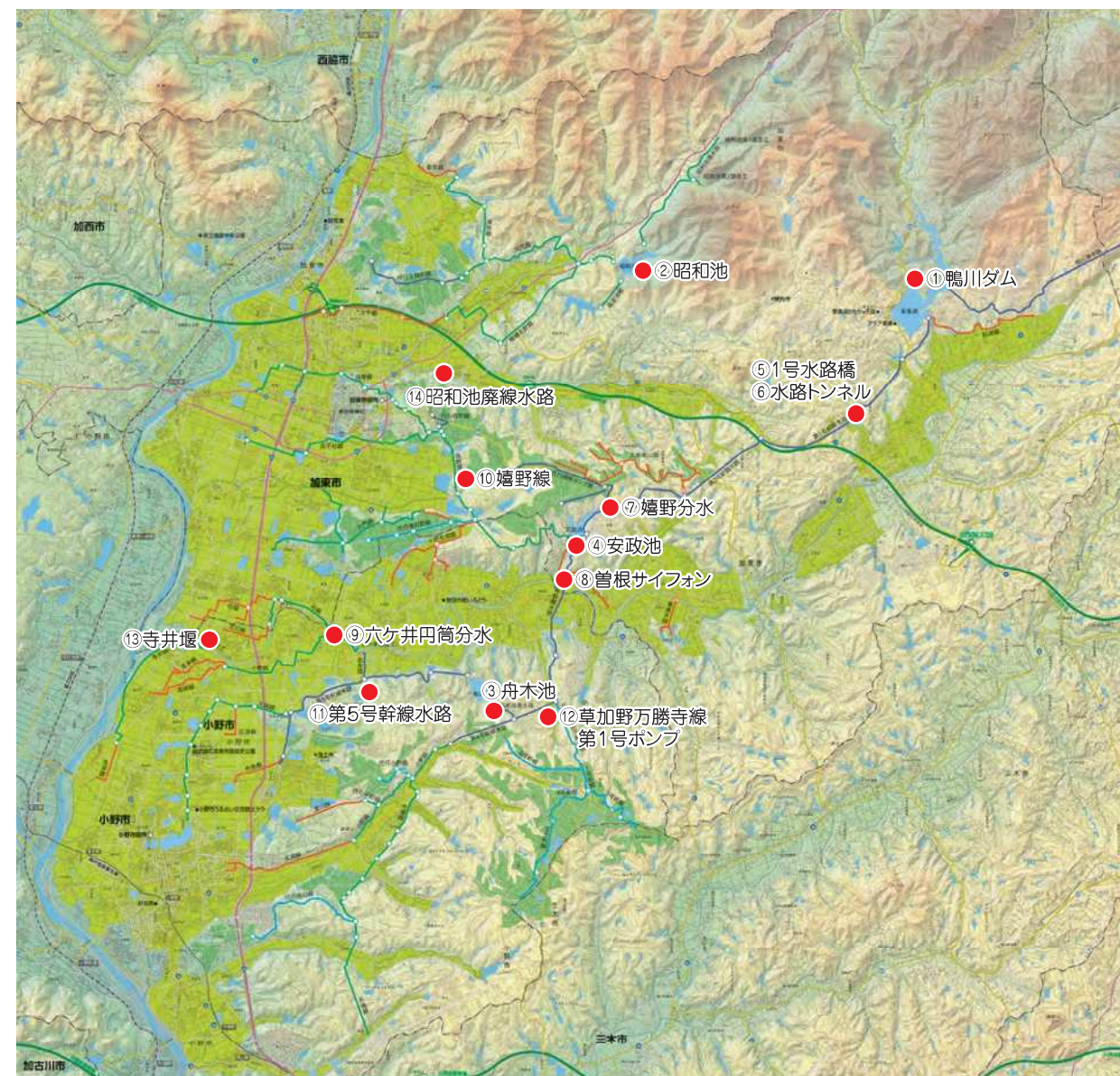
…今、作付けをしていない水田が40%もあり、多くの農家は農業用水に対する切迫感をもっていません。それに、長い年月の経過とともに、東条湖の底に土井地区が沈んだことを知らない人も増えてきました。そこで、土井地区の方が、後世のことを考え苦渋の決断で移転されたことを、「東条川疏水読本」の物語をもとに子ども達に伝え継ぐため、紙芝居をつくりました。



さん こう どうじょうがわ そ すい どくほん  
 参考:「東条川疏水読本」

どうじょうがわ そ すい  
**⑧ 東条川疏水**

東条川疏水流域は、全国でも特に雨の少ない地域です。かつてこの地域にくらす人々は、水を得るために大変な工夫や努力を重ね、水を大切にしてきました。東条川疏水は、2006年に「全国疏水百選」にも選定され、地域にとってかけがえのないものとなっています。



かみしばい こてい ばっすい しゃかい か ふくどくほんようさんこうしりょう  
紙芝居「湖底のふるさと」から抜粋(社会科副読本用参考資料) 黒谷地区

この話は、米づくりに必要な水を求めて苦勞をした人々と、先祖からの大切な家や田畑が東条湖の底に沈んだ加東市黒谷地区土井村の人々のお話です。

加東や小野では、これまで日照りが何度もありましたが、大正13年(1924年)のような大変な日照りは、めったにないことでした。

ある日のこと、小野の市場の近藤村長は播州清水寺へお参りの途中、山と山で狭くなった土井村の谷を見て叫びました。

「土井村は、四方を山ですっぽりとつつまれた盆地だ。谷をせき止めてダムにすれば、たくさんの水を貯めることができる。ダムができれば、加東と小野の3000町歩(3000ha)が日照りから救われる。」

村長の顔はみるみる引き締まりました。

それ以来、村長は、専門家の意見を聞き、数年にわたってダムづくり計画を練ったのです。

「大川瀬に大きなダムをつくり、土井にも鴨川ダムをつくる。そして二つのダムを水路で繋ぐ。つぎに鴨川ダムから太い水路をつくり、水の足りない村へ水を送る。」という計画です。

そこで、この二つのダム建設計画を聞かされた各地の村長たちは、一緒に東京へ行き、国などに働きかけました。その結果、昭和14年(1939年)二つのダムをつくるということが国で決まりました。

しかし、昭和16年(1941年)に太平洋戦争が起こり、ダムをつくる事業計画が中止となってしまいました。

昭和20年(1945年)8月、長きにわたった戦争に日本が敗れ、たくさんの兵隊さんが中国大陸や南の島々から帰ってきました。すると、人口が増え、米が足りなくなってしまったのです。みんながお腹を空かせ、ガリガリに痩せてしまったのです。中には満足な食事ができずに、病気になったり死んでしまったりする人も出てきたのです。

そのため国をあげて食糧を増やすことが必要となりました。

そこで、国では米づくりのため、再びダムの建設が決まりました。

そして、加東の黒谷地区の土井村がダムで沈むことになったのです。

土井村は7世帯51人と小さな村でしたが、一人ひとりが一生懸命働いて豊かに平和に暮らしていたのです。

そこへ土井村にダムを造る話が突然出てきたのです。

しかも国が決めた補償金では立ち退き費用すら出ず、土井村の人々は納得できませんでした。それで、何度も村人と上東条村の村長、国の役人が集まって、話し合いをしました。

上東条村の村長は、

「日本には多くの人がお腹を空かしており、困っている。ここにできるダムの水で多くの人の命が救われるので、どうか理解してほしい。」

と粘り強く説得しました。

そこで、土井村の人々は、ここにできるダムの水で多くの人の命が救われるならばと、泣く泣く立ち退きを受け入れたのです。

引っ越し、それはもう大変でした。

まず納屋をつぶして、その材木・釘・障子やガラス戸まで新しい土地に運んで建て直すのです。その納屋で生活しながら次は蔵を移します。最後は母屋をつぶすのです。

車のない時代ですから、荷車を牛に引かせて運びました。

神棚から仏壇、石垣の石や柿の木まで、持って行けるものは全部運びました。

こうして、毎日毎日、暑い夏も、寒い冬も、家族みんなで荷物を運びました。それでも引っ越しに2年半の歳月がかかりました。

土井村の人々の立ち退きが終わると、ダム工事は急ピッチで進んで行きました。

毎日毎日、昼も夜もダム工事が行われて、わずか2年の間に延べ60万人の力で、念願の鴨川ダムが完成しました。

そして、引っ越しの終わった土井村は、東条湖の底に沈んでしまったのです。

それは、昭和26年(1951年)11月のことでした。

「ゴオーー。」  
鴨川ダムの取水ゲートが開けられました。

東条湖に貯められた水が用水路を通過して、東条や社、小野の村々に届きました。東条湖の水が来るのを見て、

「水が来た。」

「水が来たぞ。」

「わあー、すごい水や。」

「これで水の心配せんでええなあ。」

「ありがたいことや。これでわしらも安心して米がつかれるぞ。」

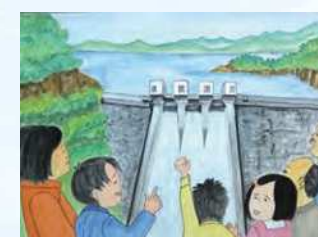
「よかった。よかった。」

「よかったなあ。」

鴨川ダムができてから、加東だけでなく、小野、三木の一部にも広く水を運ぶ「東条川疏水工事」が続けて進められました。

そして、今では、鴨川ダムで貯められた水は米づくりだけでなく水道水にも使われるようになりました。

今、私たちは、水の心配をせずに安心して暮らしていますが、満々と水を湛えた東条湖の湖底には、その昔「土井村」の人々の静かで平和な暮らしがあったのです。



おわり



わりはいでん  
割拝殿

(「若衆」が宮めぐりの身支度をし、  
神主が神楽を舞うところ)



たちまい  
太刀舞



はなだかめん  
鼻高面



なんぢょうしゃ  
年長者による指導



## 本殿



上鴨川住吉神社は約700年前に建てられました。建物の建てられ方が貴重で、本殿は国の重要文化財に指定されています。

むかしは氏子の地域がとても広がったそうです。その後、地区ごとに神社を建てて分かれたことから、今では上鴨川地区だけの神社になったといわれています。

住吉神事舞は、1977年5月17日、国指定重要無形民俗文化財に指定されました。

## (2) 地域の祭り

### ① 住吉神事舞踊り

上鴨川住吉神社で奉納される「神事舞踊り」は、上鴨川地区に生まれた長男だけでつくられた「宮座」とよばれる組織によって、とりおこなわれています。鎌倉時代から約800年間、「宮座」によって守られてきたものです。

米や麦など農作物が豊かに実ること（五穀豊穡）、病気をせず元気であること（無病息災）を祈願して、毎年10月第一土曜日・日曜日に「神事舞踊り」が奉納されています。日曜日の本宮では、盃ごとの後に、太刀舞・獅子舞・田楽・高足、そして、翁・冠者・父の尉等の演舞後、「祇園座（二男、三男）」による子供相撲が奉納されます。

【参考】「宮座」は、8・9歳頃「若衆」→25歳頃「清座」→32歳頃「年老」→最高責任者の「横座」により組織されています。どんなに古い格式の家柄であっても、長男以外は絶対に入ることは許されず、祇園座と呼ばれる役をつとめるだけです。

### 上鴨川神事舞保存会 東谷さんのお話

自分が生まれた時からあった祭りで、おじいさんもしていました。1~2年父といっしょにしましたし、するのが当たり前でした。今、息子が練習をして神事舞踊りをする姿を見るのは、うれしいですね。



年齢や役目が上がるにつれ、後世から伝えられてきた歴史や、引き継ぐ重み、つないでいく重みを感じました。お面をかぶって踊るので、顔は滝のように汗が流れ、体は汗だくになって大変です。一年でも長く、この神事舞を後世に伝えていくのが、わたしたちの役目だと思っています。

### 上鴨川神事舞保存会 神田さんのお話

神事舞は昔から受け継がれている踊りです。今後、後継者に教える立場にもなっていくので、先輩たちの姿を見て、しっかり踊ることができるようになりたいと思っています。



保存会の方々の願いは何か。



出典：加東市文化財係



ちょうこうじ ほんどう こくほう  
朝光寺本堂(国宝)



しょうろう じゅうようぶんかざい  
鐘楼(重要文化財)



た ほうとう けん していぶんかざい  
多宝塔(県指定文化財)



たいまつ あかめんおに おの あおめんおに おど おに いちだん おど  
松明の赤面鬼、斧の青面鬼の踊り→鬼が一団となって踊る

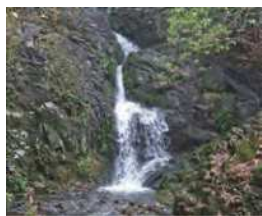


たいまつ たち  
松明 太刀

ちょうこうじ てら  
朝光寺は、どんな寺かな。



ちか たき  
近くに、つくばねの滝が流れていて、市の天然記念物である“ツクバネ”が自生する、自然豊かなところだよ。



おに おいおどり かとうし かんこうきょうかい  
鬼追踊：加東市観光協会

## ② 朝光寺と鬼追踊(畑地区)

かとうし はた こくほう してい ちょうこうじ  
加東市畑地区にある国宝に指定されている朝光寺は651年、天竺(インド)からやってきた法道仙人という人が開いた寺だとされています。

ほんぞん ちくぞうせんじゆ  
本尊である2つの木造千手観音立像は、それぞれ平安時代・鎌倉時代につくられました。県の指定文化財として、大切にまつられています。



せんじゆかんのりつぞう  
千手観音立像

まいとし がつ にち おこな  
毎年5月5日に行われる(奉納される)「鬼追踊」は、室町時代が始まりであると言われています。本堂正面外の舞台上、翁1人と4人の鬼方で演じられます。松明を持った翁の踊りから始まり、松明の赤鬼、斧の青鬼、太刀の黒鬼、すずの錫杖(つえ)の黄鬼と順に踊って、最後は鬼が一団となって踊ります。

びょうき げんき けんこう むびょうそく さい ほう  
病気をせず元気で健康なこと(無病息災)や、豊作(五穀豊穰)を願う、昔から伝わっている伝統行事です。

わか ひと すく  
若い人が少なくなっていますが、受け継いでいくために保存会を立ち上げ、今は20人くらいで行っています。

## 鬼追踊 保存会 山田さんのお話

いっぽ いっぽ おに おど あし ふたん たいへん  
一歩一歩のふんばりをきかすこの鬼踊りは足への負担は大変なものです。今は、松明作りや踊り子の着付けなどを担当しています。松明は、95cmのヒノキを細く割ったものを棒のまわりに立てて竹の皮でくくり、さらに、すきまにヒノキをうちこんで丈夫に作っています。毎年、新しい物を作り、次の年のために1本残しています。この松明の作り方や踊り方などをのせた本を作って次世代に残していけるようにしています。伝統を引き継ぐため、今は踊りたい人を朝光寺の檀家以外の方からも募集しています。踊り子さんの都合に合わせて練習する日を決め、踊りを好きになってもらうよう心がけています。現在23才~50才の方が交代しながら役を演じています。この鬼追踊がある「鬼まつり」へ、できるだけ多くの方に来てもらいたいです。



## 踊り子 上田さんのお話

おど こ うえ だ  
伝統的な祭りに参加して地域に貢献したいと思っています。小さいときから見ていて、かっこよくて、参加したいと思っていました。高校生で手伝い始めて、昨年初めて多くの人前で踊りました。非日常的な経験をさせていただき、楽しかったです。松明を持って踊るのがかっこいいと思って、翁の踊りをする役を選んでいます。



## 踊り子 藤原さん、山田さんのお話

おど こ ふじ なら やまだ  
小さいときから裏方の仕事で参加してきました。畑地区に住んでいる人だけでなく助けたいと思う人が参加しています。「伝統を残していきたい」と強く思っています。



たいまつ おの たち  
松明や斧、太刀、錫杖は、けっこうおもいよ。



ほんぞん  
保存会の方々のねがいは何だろう。



ひゃっこおどり ようす  
百石踊の様子  
ひょうご けん しつていじゅうよう むけいみんぞくぶんかざい  
(兵庫県指定重要無形民俗文化財)



まつ ようす  
祭りの様子



れんしやう ようす ていきやう  
練習の様子 (KCV提供)

おど  
踊っている人の  
いしやう とくちやうてき  
衣装が特徴的だ  
ね。



ひゃっこおどり  
③ 百石踊(西戸地区)

かとうし あきつ あき つ すみよしじん じゃ ほうのう あき  
加東市秋津地区の秋津住吉神社で奉納される「秋  
津百石踊」は、室町時代末期に「雨乞い踊」として  
つひやくこくおどり むろ まち じ だい まっ き あま ご おどり  
始まったものが起源とされています。百石踊は次第  
はじ きげん ひゃっこおどり し だい  
に途絶えていきましたが、1961(昭和36)年に保  
とだ ぼ  
存会が立ち上がり、豊作を願って毎年4月29日(昭  
ぞん ぼう ねが しょう  
和の日)に奉納されるようになりました。かつては、  
わ ほうのう  
住吉神社の氏子(各地区)に百石踊があり、歌や踊  
すみよし じん じゃ うじ こ ひゃっこおどり うた おど  
りは違っていました。現在は西戸地区のみに継承さ  
ちが げんざい さい ど けいしやう  
れています。この踊を一度踊れば米百石分の経費を  
おどり ど おど ひゃっこく けい ひ  
つかうことや百石の米が収穫できることなどに由来  
ひゃっこく やく しやうかく ゆ  
していると言われてます。約20人が、歌詞や抑揚  
やく じゆん ま  
のちがう6曲を約50分かけて順に舞います。

※米百石は約15,000kg=150万円  
ひゃっこく やく  
百石とはたくさんのお米という意味もあります。

しら  
【調べてみよう・聞いてみよう】

- ・加東市観光協会 48-0995
- ・秋津住吉神社 47-0422
- ・加東市文化財係 48-3046
- ・加東市の図書館



やしちゆうおうとしよかん たき と しよかん じやうと しよかん  
(社中央図書館、滝野図書館、東条図書館)



ひゃっこおどりしやしんしりやう  
百石踊写真資料

すみよし じん じゃ くう じ おお き た  
住吉神社宮司 大喜多さんのお話

むかし せい おど  
昔はすべて男性で踊っていましたが、  
れい か えいきやう おど い じ  
少子高齢化の影響で踊りを維持するの  
むずか げんざい せい さん か  
が難しくなっていました。現在では女性も参加す  
たい じゆうなん けいしやう  
るようになり、時代に合わせて柔軟に継承していま  
ひゃっこおどり さい ど く じん  
す。「百石踊」は西戸地区だけでなく、近隣の地区  
にも準備を手伝ってもらいながら、みんなで行って  
つだ おど  
います。「百石踊」があることで、心に活気が出て  
ひゃっこおどり  
きました。氏子さんが困らないように、力になれる  
うじ こ こま  
ように次世代へつないでいきたいと思ひます。



おお き た かなたに  
大喜多さんや金谷  
さんはどのような  
ひゃっこおどり  
思いで百石踊にか  
かわっているのだ  
ろう。



さい ど ち く ひゃっこおどり ぼ ぞん かい かなたに  
西戸地区百石踊保存会 金谷さんのお話

ひゃっこおど だいたい く でん つ しょうわ  
百石踊りは代々口伝で引き継いできました。昭和  
さい ど ち く ひゃっこおどり ぼ ぞん  
36年に西戸地区百石踊保存会を立ち上げました。西  
ど ちく くに 伝わる おど し せ だい の こ まも  
戸地区に伝わる踊りを次世代へ残したい、守りたい  
という思いからです。毎年3月から週に1回、合計  
ごうけい  
8回ほど練習をして本番をむかえます。少子高齢化  
れい か  
の影響を受け、本来よりも人数を減らして踊ってい  
えいきやう  
ますが、保存会29人で力を合わせて伝統を守ってい  
でんとう まも  
ます。たくさんの人に見てもらえた時が嬉しいです  
うれ  
ね。



かみぐみ  
【上組】

しもぐみ  
【下組】

かみなか  
【上中】

しんまち  
【新町】

※佐保神社

「佐保神社」は昔、「坂合神社」と呼ばれていました。時代とともに変わり、「佐加穂」となり「佐保神社」となりました。

④ 秋祭り(佐保神社※)

毎年10月の体育の日の前日の土日に、北播三大祭りの一つに数えられている佐保神社の秋祭りが行われます。

2台の神輿と、上組、下組、上中、新町から4台の豪華絢爛な布団屋台が練り歩き、大門地区・上田地区の獅子舞も奉納されます。社市街地を屋台が並んで巡行する光景も豪華で、沿道には、大勢の人が出迎えます。子ども曳きも行われ、多くの子どもが長い綱で屋台を曳く様子も見られます。



4台そろって迫力があるね。



秋祭りの意味

秋祭りは、五穀豊穰を祈る伝統行事です。地域ごとの特色が色濃く反映されています。これらの祭りを通じて、古くからの日本の文化や地域社会の結びつきを再確認することができます。

昔の秋祭りは、どんな様子だったのかな。



担ぎ手さんの思い

今でも子どもころの祭りをよく覚えています。ちょうど小学校3・4年生のころでした。当時は、今とはちがい、屋台の数も7台あり、佐保神社の境内が屋台でいっぱいでした。小学生時代は、屋台の巡行の後をついて歩きました。大人の人からおやつや飲み物をもらうなど、大人の人と同じ空気に浸ることで、少し大人びた気持ちになり、また自分たちの屋台が一番だと誇らしく思っていました。中学生になると部活動で祭りから離れてしまいましたが、大学生になり、久しぶりに祭りに参加するとそこには懐かしい友の顔がありました。そのとき、「自分の故郷(アイデンティティ)はここにある!」と感じたことを思い出します。以来、毎年秋祭りに参加しています。今でも、自分たちの屋台が一番だと誇らしく思っています。宮入の際には、地域の人に勇壮な姿を見てもらい、元気になってもらえればと思っています。そして、いつまでも多くの人の心の故郷になって行けばいいと思い、今も祭りの運営に携わっています。



いしとうろう いしとり い  
石燈籠と石鳥居  
おく すいしんもん  
(奥に随神門がみえる)

わりはいでん  
割拝殿  
さんばいしや はいらい  
(参拝者が拝礼するところ  
この奥に本殿がある)



ほんでん じゅうようぶん かざい  
本殿(重要文化財)



やま

ごへい  
御幣

「やま」の上に御幣が立てられる様子



ほうさく ねが きも  
米の豊作を願う気持ちをこめて燃やす

### 柿葺とは?

こけらいた やね ふ  
柿板で屋根を葺くこと。  
いっばんてき  
一般的には、ひわだぶきが多い。

こけらいた  
現在では柿板としてサワラの板を使うことが多い。

### 桧皮葺とは?

ひ わだ ふき  
ヒノキの皮で屋根を葺くこと。

からは ふづくり  
唐破風造とは  
つく  
どんな造りだろう。



ぶぶん  
この部分が少し、カーブしている。この形を唐破風造りといい、珍しい。

## ⑤ 若宮八幡神社(黒谷地区)(通称 若宮八幡宮)

わかみや はちまんじんじや くろだに く つうしょう わかみや はちまんぐう  
加東市の黒谷地区にある、若宮八幡神社は、いつ頃建てられたかは不明ですが、本殿の内陣板壁に墨書で1564年に再建されたことが記されています。

1962年6月21日に国の重要文化財に指定されています。

本殿は三間社流造といわれる様式で建てられており、屋根はこの周辺では珍しい柿葺です。三間とは柱と柱の間が三つあることをいいます。本殿正面の「唐破風造」は全国的にも珍しく、神社建築として現存する貴重な構造です。

向拝・虹梁・身舎の頭貫の木鼻などに、「オモト・ショウブ・キク・コイ・ツル・カメ・柏葉・筆」といった多彩な彫刻が装飾されています。



ショウブ



コイ

## 若宮八幡神社の柱祭り

(2012年3月28日 加東市の無形民俗文化財に指定)

毎年、黒谷地区では8月16日に「柱祭り」が行われます。この行事は地区を二つの組に分けて、1年交代で行われます。これは、「やま」の造り方を次の時代へ間違いなく伝えていくために二つの組で互いに確かめ合うためです。

### ・8月7日 「山切り」

柱祭りに用いる材料の木々を神社の裏の宮山から切り出します。切り出した木々は16日まで神社の周辺において天日で乾燥させます。

### ・8月16日 「山建て」

早朝から準備した材料を用いて、神社の前の方、馬場先といわれるところに「やま」を造ります。長さ約7メートルの黒松の周りにそれぞれ長さの異なる木々をまとめて強く縛り、1本の太木のように仕上げます。その上には、御幣を取りつけます。夕刻から神社では祭典が行われた後、盆踊りが盛大に行われます。夜10時頃に、宮司が神前のお灯明から松明に斎火を移し、「やま」へ点火します。炎は高く燃え上がり、火の粉が夜空を彩ります。炎には豊作を祈る人々の気持ちがこめられています。

約7メートルの黒松は、どれくらいの高さかな?



学校の校舎の2階の天井あたり。

柱祭りは、五穀豊穡ということで、お米の豊作を願って行われているといわれている。

「やま」の上に御幣が立てられている。村の人たちは、御幣の燃え方に注目している。まっすぐ上へあがればあがるほどよいと言いつたされている。

### いみび 斎火とは?

せいじょう  
清浄な火ということだよ。



こうたか かくら し し まいでんしょうかい  
河高神楽獅子舞伝承会



ほらがえ  
洞返り



たにわた ぜんだん  
谷渡り(前段)



れんしゅうご  
練習後のアドバイス

し し まい たいせつ  
獅子舞を大切にできた  
ひとびと き も かんが  
人々の気持ちを考えよう。



し し まい なん ふっかつ  
獅子舞を何とか復活させ  
たいと願ったのは、どう  
してだろう。



### ⑥ 河高獅子舞の歴史

こうたか し し まい れきし  
河高地区の獅子舞は、古くから氏神様の秋祭りで舞われてきました。1850年頃、五峰山光明寺の寺院や参道を築いた四国の石工たちから伝えられ、獅子舞が地域に根付いたと言われています。

その後、神楽獅子舞として祭りに奉納される伝統行事が確立されました。1963年頃に青年団がなくなると舞われなくなり、獅子舞は消滅しました。しかし、1981年に地域の有志や経験者によって獅子舞が復活し、その後、「河高神楽獅子舞伝承会」が正式に結成されました。獅子舞が河高地区に伝わって以来、170年以上もの間、この文化は受け継がれています。



しつない ようす  
室内の様子



おくがい ぶたい ようす  
屋外舞台の様子

### 河高神楽獅子舞伝承会の福嶋さんの話

こうたか かくら し し まいでんしょうかい  
河高の獅子舞は地域の財産であり、ゆったりとした威厳ある動きが特徴です。



獅子舞を追究すればするほど新たな発見があり、その獅子舞を見て、他の地域でも復活した例があります。毎年、秋祭りに向けて3か月に渡って練習をします。舞を終えたバヤシ子が達成感から涙を流す場面は感動的です。獅子舞は子どもの成長に大きな役割を果たしていますが、獅子舞を伝える後継者不足や少子化によるバヤシ子不足の課題もあります。わたしは、今後、住民が知恵を出し合いながら、先人から引き継いだ獅子舞を次世代へ継承していきたいと考えています。



し し まい どう が  
獅子舞動画

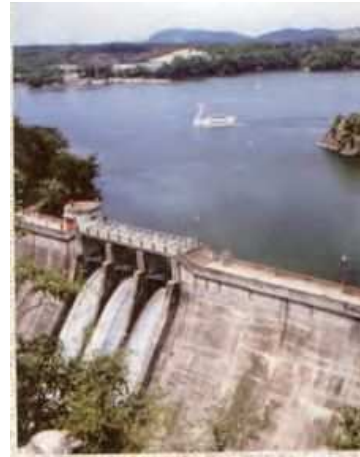
ねんいじょうつづ ちいき でんとう  
170年以上続く地域の伝統文化である神楽獅子舞には、どんな『舞』があるのかな。



し し まい なん ふっかつ  
獅子舞を何とか復活させたいと願ったのは、どうしてだろう。



まつ お け けんしやう び  
松尾家顕彰碑



かもがわ  
鴨川ダム



さねもり うま わらにんぎやう  
実盛さんと馬の藁人形



むしおく  
虫送り

## ⑦ おく 虫送り

### いな お かいたく れきし 稲尾地区の開拓の歴史

いな お さん ど かいたく へ げんざい いた  
稲尾地区は、三度の開拓を経て現在に至っています。約300年前、「になご野」と呼ばれる原野だった土地を、江戸時代の旗本であった千種清右衛門と井沢弥惣兵衛が開発を命じましたが、水不足により一度荒地に戻りました。その後、北野村の松尾庄三郎が代官所の許可を得て再開発を進め、ため池を築きました。

1871年には地名が「稲尾」に改められました。太平洋戦争中には播州歯車農業部が開拓を行い、戦後は満州からの引揚者が加わりました。水不足が課題でしたが、昭和池の水が供給され、鴨川ダムの完成とともに米作りが盛んになりました。

### むし れきし 虫おくりの歴史

むし れきし  
虫おくりは、農作物につく害虫を取り除き、その年の米の豊作を祈願する行事です。稲尾地区では、毎年7月に行われています。「実盛さん」という武

みず くらう ひとびと  
水に苦労した人々の  
きも かんが  
気持ちを考えよう。



いなお ちめい ひとびと  
稲尾の地名には、人々の  
ねが こ  
どんな願いが込められて  
いるのだろう。



しやすがた わらにんぎやう つく かずおお たいまつ ごへい しよう  
者姿の藁人形※が作られ、数多くの松明と御幣が用意されます。夕方近く、太陽が西に傾く頃、鐘と太鼓をたたきながら、「実盛さんはご上洛、稲の虫やお供せい」とかけ声をかけながら松明を手に村中を回ります。

### いな お ち く おお にし 稲尾地区 大西さんの話

むし おくりは、1941年に戦争の影響で途絶えましたが、住民の三世代が交りゆるぎょうじ さいかい のぞ こえ たか  
流できる行事として再開を望む声が高



まりました。そこで、多可町の虫おくりを視察し、2003年に復活しました。現在では、住民が楽しみにしている行事となっています。これからも虫おくりを通して、人と人とのふれあいを大切にし、参加する子どもたちが稲尾への愛着を持ち続けられるよう願っています。



むしおく どうが  
虫送り動画

### さい どう さね もりにんぎやう ※ 斎藤実盛人形

さねもり げんべいがっせん きやうと む  
実盛は、源平合戦で京都へ向かう途中、乗っていた馬が稲の切り株につまずいて倒れたところを敵に討ち取られたことから、実盛が害虫に化けて稲を食い荒らしているのではないかと恐れられ、その霊をしずめる神事として虫おくりは、全国に広まりました。

せんそう  
戦争でとだえていた虫おくりが  
ふっかつ  
復活したのはどうしてだろう。





いろいろな紙しばい  
があるね



### (3) 加東市に残る民話

加東市には、地域に残るいろいろな民話（民衆の中から生まれ、語り伝えられてきた話）があります。



加東市にはいろいろな民話があるよ。自分たちが住んでいる地域には、どんな民話があるかな。



（みのりの民話集より）

民話	地区
• 吹き矢の殿さま	上三草
• 虎さんとフクロウ	沢部
• 黒い阿弥陀さま	久米
• 多田池の大蛇	藤田
• オコゼと山の神	平木
• 神戸石の由来	穂積
• 白狐のお告げ	高岡
• 三本杉のふしぎ	光明寺
• 多井田のお薬師さん	多井田
• 土地蔵はんの縁日	下滝野
• 鍋かぶり	秋津
• ホッサン橋	吉井
• わらじぎつね	新定
• 黒谷の一番堂	黒谷
• ニヶ淵	岡本・岩屋

### ○白狐のお告げ（加東市高岡地区）

むかし、高岡という場所は、草ばかりの広い野原でした。そこには、全国のお寺をまわる「巡礼」の人たちが通る道があるだけでした。

ある秋の日、河高村に住む若者・喜市が、いつものように法華山へおまいりに行った帰り、野原で休んでいました。「ここに水があれば、田んぼが作れるのになあ」とつぶやいたその時、空がまっ暗になり、白い髪をして白い服を着た老人が現れました。

「7日後の夜、またここへ来なさい。水の道を教えてあげよう」と言って、すぐに消えてしまいました。



7日後の夜、喜市が約束どおり野原に行くと、今度は真っ白なきつねがあらわれました。きつねは右へ左へと走り、喜市を新条池まで導きました。朝になつて、きつねの足あとをたどると、少しずつ高さがちがう場所がありました。



喜市は人を集めて、そこに水を通す溝をほり、野原に水をひくことに成功しました。

そのうわさを聞いて、たくさんの人が集まり、高岡村ができました。村のまんなかには、白狐をまつた神社があります。

### 〈ことば〉

#### 白狐



白い毛のキツネや、年を経て毛が白くなったキツネ。日本では古くから白狐は神の使者として崇拝されている。

#### 導く

人をよい方向へ案内したり、教えたりすること。

#### 参考文献

みのりの民話集100  
みのり農業協同組合企画  
情報課編集



高岡稲荷神社

〈ことば〉

孝行

家族、特に親を大切に、感謝の気持ちをあらわすこと。

奉公

むかしの人が、ほかの家で働いてお手伝いをする事。

工面

お金や物をなんとかして用意すること。

参考文献

やしろ昔ばなし集 ふるさと

社町子ども会連絡協議会 編集・発行

三草ふれあい広場HP



孝女ふさの碑

孝女ふさ (加東市上三草地区)

むかし、上三草村で、孝行をつくした少女、ふさのお話があります。

ふさは幼いころから家のために働き、父の作った草履や草鞋を売って家計を助けていました。村人は、ふさの働きぶりを見て感心し、彼女の草履をよく買ってくれました。



ある日、ふさは売り物を持って急いで帰ろうとしていました。日が暮れる前に、山で働く父を迎えに行かなければなりません。村人たちは「ふさは本当に孝行者だ」と話し合いました。ふさは毎日、家の仕事を手伝いながら、父の迎えにも行っていました。

しかし、ある時、父が病気になり、家の生活はさらに苦しくなりました。ふさは父の薬代を工面するために、奉公に出ることを決意しました。父のそばを離れるのはつらかったですが、ふさは「お給金をもらったらすぐに届けます」と言い、家を出ました。奉公先では、ふさは一生懸命働き、主人にも気に入られました。休みの日には、もらった食べ物をお父さんのために持ち帰りました。父はふさの持ち帰ったものを食べると、少し元気になりました。



ふさの孝行は村でも評判となり、彼女の行いをたたえる碑が建てられました。今もその碑は残り、ふさの優しさと努力が語り継がれています。

〈ことば〉

庄屋

村のまとめ役として、みんなの意見を役所に伝える人。

女中

家の中のそうじや料理などをしてくれた、お手伝いの人。

家宝

その家で大切に受け継がれてきた、記念の物や思い出の品。

お菊むし (加東市下滝野地区)

むかし、江戸時代のある秋の夜、お城から逃げてきた娘が下滝野村の庄屋の家をたずねました。「たすけてください」と戸をたたき娘は、お菊という名で働きました。お菊は姫路のお城で働く女中で、殿様の夫婦にかわいがられていました。しかし、それをねたんだ仲間が家宝の皿を隠し、お菊が盗んだとうそをついたのです。おこった殿様は、お菊を捕らえるよう命じました。お菊は必死に逃げ、下滝野村までたどり着いたのでした。



庄屋はお菊をかくまいましたが、数日後、お城から「お菊をかくまった者は同罪。知らせた者には褒美をあたえる」との知らせがありました。庄屋は悩みましたが、おそれのあまり、お菊がいることを知らせてしまいました。すぐに役人が来て、お菊を捕らえ、お城へつれていきました。このひどい仕打ちにおこった村人たちは、庄屋の家を「お菊屋敷」とよびました。

それから数年後、庄屋の家には不幸が続き、ついには家も人も絶えてしまいました。村人たちは「これはお菊のたたりだ」とうわさしました。そして、お菊屋敷の木々には、ミノムシにたふしぎな虫があらわれました。その形は、ちょうど人が後ろで手をしばられたように見えました。村人たちは、お菊が捕らえられた姿を思い出し、この虫を「お菊むし」とよぶようになりました。



参考文献

みのりの民話集100

みのり農業協同組合企画 情報課編集

かたりきかせ たきの民話

たきの民話の会編集

〈ことば〉

豊富

たくさんあって、選べるぐ  
らいにゆたかにあること。

測量

土地の広さや高さをはかっ  
て、地図をつくるための作業。

ノミ

木や石などをけずったり、  
形を整えるための道具。

偲ぶ

亡くなった人や昔のことを  
思い出して大切にす。

参考文献

ふるさと東条

東条町老人クラブ連合会  
編集・発行

○水ひき地蔵 (加東市長井地区)

長井村は東条川の近くに広がる村ですが、高い場所  
では水が不足し、田植えができないことがよくありま  
した。村人たちは相談し、すぐ上にある黒石村から水を  
分けてもらうことになりました。黒石村は湧き水やため  
池が豊富で、快く協力を申し出てくれました。しかし、  
長井村まで水を引くには山が邪魔をしていて、そのまま  
では水を運ぶことができませんでした。

村人たちは何とか解決しようと考え、山にトンネルを

掘ることを決めました。測量の  
知識や便利な道具がなくても、  
みんなで協力しながら懸命に掘  
り進めました。岩が硬いところ  
ではノミを使いながら作業を続  
け、ついに完成まであと少しと  
いうところまで来ました。ところが突然、岩の天井が崩  
れ、働いていた少年が閉じ込められてしまいました。村  
人たちは悲しみながらもトンネル完成に喜び、村の水  
問題は解決しました。



少年の両親は村を離れ、彼を  
偲んで地蔵を立てました。トンネ  
ルは年月とともに忘れられてし  
ましたが、今も地蔵の前には誰かが季節の花を供えていま  
す。

〈ことば〉

荒地

木や草がなくて、耕されてい  
ない、ほったらかしの土地。

持仏堂

家の中などにある、お寺の  
ように仏像をまつる場所。

○ミョーサイ・コサイ (加東市上鴨川地区)

むかし、上鴨川村の近くに広い荒地がありました。村  
人は畑や田んぼを作ろうとしましたが、なぜか途中で  
みんな逃げてしまいました。「どうしてなのか」と不思議  
に思いながら、よくばり者のごんやんは、「誰も畑を  
作らないなら、わしがやれば全部わしのものになる。」  
とひそかに思い、村の外の人を誘い、東谷の土地をなら  
し始めました。

しかし、ある日クワをふるうと  
人の骸骨が出てきました。その  
とき、「うー苦しい」という低い  
声が聞こえ、こわくなったごん  
やんたちは村へ逃げ帰りました。



それから東谷には誰も入らなくなりましたが、ある  
日、一組の夫婦が現れ、小屋を建てて住み始めました。  
村人は「そのうちこわくなって逃げるだろう」と思いま  
したが、夫婦は畑を作り、作物を育てていきました。村  
人が様子を見に行くと、土地は豊かで、戦いで亡くなっ  
た人の武器や欠片が出てきたため、持仏堂を作ってお  
まつりをしたといいました。そして、村人たちに「みんな  
で力を合わせて作物を育てましょう」とすすめたのです。

村人は賛成し、東谷は活気にあふれました。村がで  
き、夫婦はやがて亡くなりました  
が、自分たちがどこから来た  
のかは語りませんでした。彼ら  
はミョーサイ・コサイと呼ばれ、  
その墓は今も東谷の山の奥深  
いところに仲良く並んでいます。



参考文献

はりまの伝説

(加東郡編)

吉田省三 編著

かたりきかせ

やしろ町のむかし話

社町保育園児童館民話  
編集委員会編集

### 3 郷土の発展につくした人々

#### (1) 阿江 与助 (~1671年)



阿江与助像

★阿江与助像はここにありよ!

闘竜すくえあ

かみたきの (上滝野290-3)



阿江与助は、加古川を舟の道として切り開く工事を、中心になって進めた人です。

子どものころの与助は、勉強熱心で本をよく読む人だったと伝えられています。温かく、誠実な人からは、村の人々に信頼されていたそうです。

このころの闘竜灘は岩だらけで、浅くはげしい流れのせいで、舟もいかだも通れませんでした。

1594年、姫路藩は、滝野から高砂までの舟運開発の工事を阿江与助に命じました。ノミや玄能(金づち)などの簡単な道具だけで岩をくだき、川底をさらえる、大変な工事でした。与助は、自分の財産をたくさん使って、大工事を成功させました。

また、その10年後には、加古川上流の工事も命じられました。船町村(今の西脇市黒田庄町船町)の西村伝入齋とともに工事を行い、多可・加東はもちろん、丹波の氷上から高砂までが、舟運で一直線に結ばれました。

阿江与助は、その働きをたたえられ、滝野に船座をかまえる特別な権利があたえられました。



闘竜灘

#### (2) 大久保喜市郎 (~1761年)

江戸時代、徳川吉宗が将軍だったころ、日本では田んぼを広げる「新田開発」がさかんに行われていました。高岡の青野ヶ原も、草ばかりの広い野原でしたが、河高村の大久保喜市郎が中心となって、ここを田んぼにする工事を始めました。時は1722年のことです。

喜市郎は、毎晩のように白髪の老人が夢に出てきて、「青野ヶ原を開発しなさい」と言われました。ある日、野原を歩いていると、その老人が現れ、白いきつねの姿になって消えました。喜市郎は「これは神さまのお告げだ」と考え、開発を決意しました。(→P94「白狐のお告げ」)

高岡は高い場所にあるため、水を引くのがむずかしい土地です。そこで、加西にあった了徳寺の跡地を池にして「了徳寺池」を作り、そこから水を引くための溝「天下みぞ」を掘りました。さらに遠くの新条池からも水を引き、「任せみぞ」と呼ばれる水路も作りました。

喜市郎の作った池や水路はとても丈夫で、江戸時代に作られたにもかかわらず、今でもほとんど修理がいらぬほどです。

現在では、普光寺川や糶屋ダムからも水が送られ、地域の農業を支えています。



天下溝



大久保喜市郎像

★大久保喜市郎像はここにありよ!

高岡稲荷神社

たかおか (高岡549)



高岡稲荷神社



了徳寺山門



こてらひこべえ  
小寺彦兵衛

★僕の尊敬する  
こてらひこべえ  
小寺彦兵衛さん  
のことは、ここで  
調べられるよ!

ひょうごけんつりばり  
兵庫県釣針  
きょうとうくみあい  
協同組合HP



はしらんかん つりばり  
橋の欄干にも釣針が

### (3) 小寺彦兵衛 (1799年～1870年)

つり針は、今では加東市の特産品となっています。そのつり針の作り方を伝えた人が、小寺彦兵衛です。

彦兵衛は、下久米の庄屋の家に生まれました。不作ときびしい年貢で苦しむ農民たちに心を寄せ、なんとか豊かにならないかとずっと考えていました。そこで思いついたのが、つり針作りでした。彦兵衛は、つり針作りで有名だった四国の土佐国（現在の高知県）に向かいました。つり針の作り方は、土佐国の外にはもらしてはいけないものであったので、彦兵衛はなかなか教えてもらえませんでした。でも、なんとか住みこみの小間使いとして働くうちに、つり針の作り方も身につけていきました。

10年ほどたって、彦兵衛は帰ってきました。そして、つり針作りを始めました。しかし、焼き入れがなかなかうまくいきませんでした。何百回と失敗しながらも挑戦し続けた結果、ようやく満足のいくつり針をつくることができました。彦兵衛は、自分が身につけた技術を広げるため、弟子を募集しました。そして、弟子たちに一つ一つ丁寧に技法を教えました。そのおかげで、製造技法はまたたく間に広まり、現在でも「播州針」としてその名を残しています。

こてらひこべえおうしょうとくひ  
小寺彦兵衛翁の頌徳碑  
しもくめ みくさざか  
(下久米 三草坂)



### (4) 平川義正 (1868年～1947年)

平川義正は、今の加東市のもとになる中東条村で村長をつとめ、兵庫県議会の議員としても活やくした人物です。いくつもの会社を経営して地域の産業を発展させるなど、いろいろな分野で活やくしました。

義正は、1917年に、土地の質が悪く、農業に不向きな地域であった嬉野高原の開墾に取り組みました。このあたりは、松林や荒れた野原が広がる土地で、人が住むには向いていませんでした。しかし、義正はあきらめず、自分の財産を使って、木を切り、根を掘り、池をつくって水をため、田畑に変えていきました。

1936年には工事が終わり、全部で24か所のため池ができ、約52,000平方メートルの田畑ができました。この工事には多くの人が協力し、地域一体となった取り組みだったと言われています。

戦後になると、海外から帰ってきた人や、他の地域から移り住んだ人が中心となって、新しく土地を開墾しました。その後、鴨川ダムが完成し、水が引かれて畑は水田へと変わりました。

嬉野高原があったところには、現在、市役所や学校、住宅がたちならび、にぎやかな町として発展しています。義正の先を見通す力と努力が、地域の未来をつくる大きなきっかけとなったのです。



ひらかわよしまさ  
平川義正  
(加東郡誌から)

★平川義正さんの功績  
をたたえる記念碑はこ  
こにあるよ!

うれしのかいこんきねんひ  
嬉野開墾記念碑  
(山国)



うれしのかいこんきねんひ  
嬉野開墾記念碑



年表

元号 西暦

加東市のできごと (町のうつりかわり)

元号	西暦	できごと
明治 五	一八七二	・学制発布に伴い加東郡内に小学校ができる。
明治 十八	一八八五	・加東郡を十五に分けて、村ができる。人力車でさかんに行き来するようになる。
大正 三三	一九〇〇	・乗合馬車が走り出す。織物工場ができる。
大正 元	一九一〇	・電話が通じるようになる。初めて電燈がつく。
大正 二	一九一三	・播州鉄道がしかれ、駅ができる。自動車走り出す。
昭和 九	一九二〇	・バス会社ができる。
昭和 三	一九二八	・ラジオが聞けるようになる。たばこを作ることがさかんになる。
昭和 二十	一九四五	・戦争(第二次世界大戦)が終わる。
昭和 二二	一九四七	・新制中学ができる。
昭和 二九	一九五四	・加茂村と滝野町が合併し、滝野町になる。
昭和 三〇	一九五五	・社町、福田村、上福田村、米田村、鴨川村が合併し、社町になる。
昭和 三三	一九五八	・上東条村と中東条村が合併し、東条町になる。
昭和 三四	一九五九	・テレビ放送が始まる。国道175号がほそくされる。
昭和 三五	一九七〇	・社町有線放送電話ができる。
昭和 四四	一九七九	・東条町有線放送電話ができる。
昭和 四六	一九七一	・給食センターができる。
昭和 四九	一九七四	・中国縦貫自動車道の工事が始まる。
平成 二	一九九〇	・国道372号ができる。中国縦貫自動車道の一部が開通する(西宮―福崎)。
平成 六二	一九八七	・県立播磨中央公園ができる。社町立統合中学校校舎が完成する。
平成 六〇	一九八五	・県立嬉野台生涯教育センターができる。
平成 五八	一九八三	・国立兵庫教育大学ができる。加古川流域滝野歴史民俗資料館ができる。
平成 五五	一九八〇	・中国縦貫自動車道全線開通する。
平成 五四	一九七九	・社工業団地ができる。
平成 五三	一九七八	・滝野工業団地ができる。
平成 五二	一九八七	・加東郡農協となる。
平成 元	一九八九	・コスミックホールができる。ケアホームかとうができる。
平成 二	一九九〇	・TCC(滝野町ケーブルテレビ)が開局される。町立東条診療所がオープンする。
平成 三	一九九一	・やしろ国際学習塾ができる。
平成 五	一九九三	・社中央図書館ができる。デイサービスセンター(東条町)ができる。
平成 六	一九九四	・滝野町地域福祉センター「はびねす滝野」ができる。
平成 七	一九九五	・阪神淡路大震災が起こる。
平成 八	一九九六	・滝野町立図書館が完成する。社町老人福祉施設「ラポートやしろ」がオープンする。
平成 九	一九九七	・ひょうご東条インターチェンジが開通する。
平成 十	一九九八	・CATVネットワークシステム(インターネット・在宅健康システム)が完成する。
平成 一一	一九九九	・社町学校給食共同調理所が完成する。やしろ鴨川の郷がオープンする。
平成 一二	二〇〇〇	・「やしろこどものいえ」が完成する。東条町立東条介護支援事業所「けあ東条」ができる。
平成 一三	二〇〇一	・道の駅とうじょうが完成する。
平成 一四	二〇〇二	・社アフタースクールができる。
平成 一六	二〇〇四	・社地域情報センターがオープンする。
平成 一八	二〇〇六	・加古川線が全線電化される。
		・加東郡三町(社町、滝野町、東条町)が合併し、加東市が誕生する。

		元号		西暦	年表
令和	平成	元号	西暦		
元	一九	元	二〇〇七		
三	二〇	三	二〇〇八		
四	二一	四	二〇〇九		
五	二二	五	二〇一〇		
七	二四	七	二〇一二		
八	二五	八	二〇一三		
	二六		二〇一四		
	二七		二〇一五		
	二八		二〇一六		
	二九		二〇一七		
	三〇		二〇一八		

- ・加東遺産が選定される。
- ・ケーブルテレビ市内全域放送開始。
- ・加東市のマスコットキャラクター「加東伝の助」が誕生する。
- ・北はりま消防本部が発足する（本部は滝野）。
- ・加東市役所新庁舎が完成する。
- ・手話言語条例を制定する。
- ・加東市病児病後児保育施設「かとっこ」完成する。
- ・加東市誕生10周年。
- ・ミナクルが完成する。
- ・加東消防署新庁舎が完成する。
- ・加東みらいこども園が完成する。
- ・加東アート館が開館する。東条学園が開校する。
- ・にぎわい交流施設「h a r k」が完成する。
- ・オリンピア市（アメリカ）と姉妹都市40年記念。
- ・社会学園が開校する。
- ・加東市誕生20周年。

## 加東市のできごと（町のうつりかわり）



「播磨やしろ茶」が加東市の社地域で生産されています。昭和52年に茶の木を植えたことで始まり、播磨地方を代表する茶の産地になりました。

茶の産地に因んで、表千家という茶道を学びましょう。

## 茶道ってなあに

みなさんは「茶道」ということばを知っていますか。お茶わんを回したりおじぎをしたりして、まっ茶をのむ「お茶」なら、見聞きしたことがあるでしょう。

茶道の基本は「だれかと楽しくお茶を飲む」ということです。いっしょに楽しむということは、いっしょに同じことをして、同じことにおどろいたり、ほほえんだり、感動したりすることです。

みなさんは毎日の暮らしの中で人と仲良くできていますか。かぞくや友だち、ご近所の人たち、そしてその日初めて出会った人にあいさつをしたり、相手のことを思いやったり、そうしたことができていますか。

もしかすると、そこに人と仲良くするためのヒントがあるかもしれません。

## 千利休（せんのりきゅう）

今に伝わる茶道のきそをつくったのは、千利休です。利休（1522～91）は、げんざいの大阪府堺市に生まれ、茶人としてかつやくしました。

利休がまとめた茶の湯は、しっそでおちついた趣のある「わび茶」で、亭主と客の心の交わりを大切にするものでした。



さかいし はくぶつかん ぞう  
（堺市博物館蔵）

## 立ち居ふるまい

立つ、座る、歩くという基本動作にも美しい形があります。立ち居ふるまいは、お茶のけいこのさいしょに学ぶことです。

### すわりかた



せすじをのばし、あごをすこしひく



りょうひざの間をこぶし一つ分くらいあけ、手を組む



おやゆびだけをかるく重ね、かかとを開き、こしをのせる

### おじぎ



手のひらをハの字につき、あいてを見てから、ふかく頭を下げる



立っているときは、指先がひざ上あたりまで  
さいごに心こめてあいてを見る

歩き方は、せすじをのばしてまっすぐ立ち、たたみのへりをふまないように、たたみ半じょうを三歩で歩きます。

## 客（きゃく）のところがまえ

- ・人をうやまう心
- ・やくそくとじかんを守る心
- ・思いやりの心
- ・ゆずり合いの心
- ・ものをたいせつにあつかう心
- ・かんしゃの心

### おかしをいただく



つぎのきゃくに「おさきに」とれいをする。



かんしゃのきもちでかるくおしいたぐ。



手をそえ、おかしをかい紙の上にとる。



かしをとったゆびさきをかい紙できよめる。



かしぼんをりょう手でもってつぎのきゃくにおくる。



### おちゃをいただく



茶わんを右手でつぎのきゃくとの間におく



「おさきのちょうだいします」とれいをする



正めんにおき「お点前ちょうだいします」とれい



茶わんを右手でとり、左手でうけて、かるくおしいただく。



茶わんを手前に二度まわして、正めんを左よこによける。



お茶をいただく。何口でのんでもかまいません。



さいごの一口は、音を立ててすいきり、のみ口をゆびさきでぬぐう。



茶わんをむこうに二度まわして、正めんをもどし、もとのいちへおく。

## 茶せきのことば

### 日々是好日 (にちにち これ こうじつ)

毎日毎日が、かけがえのない最良の日である、ということ。

やってしまったまちがいにいつまでもこだわったり、まだ来ないさきのことばかりかんがえたりしません。今日、このいっしゅんを一生けんめいに生きる。一生けんめいのつまかさねが、すばらしい一日となるはずです。

参考文献：「はじめての茶の湯」千宗左、「茶の湯を体験しよう」表千家不審庵、「はじめての茶道」裏千家今日庵、「お茶のお稽古茶道入門」松井宗幸、「はじめての茶道」田中仙融、「茶の本」岡倉天心、「茶味」奥田正造、「茶花の二十四節気」武内範男、「やさしい茶席の禅語」有馬頼底、「茶道美人」岡田和弘、「日本の礼儀作法・しきたり」柴崎直人、「武道の教科書」小俣幸嗣 香田郡秀

## ものをたいせつにする心

茶道で使うすべての道具には、作る人の心がこもっています。どんなものにも作る人の心がこもっているとかがえておきましょう。茶道のおけいこで道具を大切にすることは、どんなものにも心があるからと、思っておきましょう。

ものをたいせつにするやさしい気もちで点てたお茶は、それだけでいしくいただけるのです。



## 加東市マスコット 「加東伝の助」 紹介



名 前： 加東 伝の助 (かとう でんのすけ)  
出身地： 加東市社50番地  
初登場： 2008年11月5日 (水) 20時30分  
年 齢： ずっと15歳前後 (変わりません)  
趣 味： 多くの人にいろんなことを伝えること  
好きな言葉： 夢と元気  
尊敬する人： 小寺彦兵衛さん  
チャームポイント： 髪型が加東の「か」

### ふるさと学習「かとう学」上巻

発行日 令和8 (2026) 年 3月31日  
発 行 加東市教育委員会  
編 集 こども未来部 小中一貫教育推進室  
〒673-1493 兵庫県加東市社50番地  
TEL 0795-42-3301 (代)  
FAX 0795-43-0559

### ふるさと学習「かとう学」副読本改訂委員会 (上下巻 担当)

監 修	吉水 裕也	関西学院大学	教授
アドバイザー	吉川 修史	兵庫教育大学	講師
編集委員	神田 英昭	滝野南小学校	校長
	大畑 賢志	東条学園小中学校	教頭
	多井 綾美	社学園小学校	教員
	釜谷 祐輝	社学園小学校	教員
	中原 梓	社学園小学校	教員
	阪野 弘明	滝野東小学校	教員
	富田由美子	滝野東小学校	教員
	平山 淳一	滝野南小学校	教員
	大本健次朗	社学園中学校	教員
	石井 蓮	滝野中学校	教員
	佐々木裕人	東条学園小中学校	教員
	宇高 梓	東条学園小中学校	教員
	簗田 心一	東条学園小中学校	教員
令和6年度委員	井上 公喜	滝野南小学校	教員
	佐伯 優璃	東条学園小中学校	教員



---

1年	組・2年	組
3年	組・4年	組

---